

協力事業

令和6年度

7月 ふれあい祇園まつり

11月 地域交流センター文化祭

12月 そば打ち教室

み か げ

笠間市社会福祉協議会



稲田支部

第22号

令和6年3月29日発行

発行 笠間市社協稲田支部
 支部長 宮崎 守
 編集 稲田支部広報委員会
 印刷 大塩企画



応援を力に！

持久走大会で力走

ようーい、どん



声援の中を

11月30日(木)、稲田小学校で持久走大会が実施されました。今回は初めての試みで、学校下の一般公道がコースとなりました。福原駐在所員、保護者、地域のボランティア53人の方のご協力をいただき、12か所で安全確保や交通整理に努めながらの実施となりました。

当日は朝の最低気温が0.3度と冷え込みながらも快晴の天候のもと、児童たちの懸命の力走が見られ全員完走することができました。

沿道では、おおぜいの保護者やおじいちゃん、おばあちゃん、地域の方の熱い応援の姿を見ることができました。児童たちにとっては何よりの励みになりました。

4年ぶりの開催！ 稲田ハイキング



そば畑の脇を

10月12日（木）、コロナ禍で実施できなかった稲田ハイキングが14人の参加者を得て、4年ぶりに開催できました。

当日は心地よい秋晴れのもと、



西念寺本堂

絶好のハイキング日和となりました。

朝9時に稲田駅前に集合。その後、大古山にある玉日廟へと向かいました。玉日廟は大銀杏の繁る中、ひっそりと、そして厳かにたたずんでいました。



稲田神社拝殿前で

西念寺に向かう途中では遠く石切山脈を望み、またそば畑の花を見ながらのハイキングです。

西念寺では、室町時代から伝わるという山門の前で記念撮影をしました。本堂とお葉付き銀杏や萩などの木々が風情と風格を醸し出していました。

稲田神社は奇稲田姫命（くしい

なだひめのみこと）をご祭神とし、平安時代中期の延喜式にも記載される名神大社に列せられています。ここでは、前宮司の田村壽穂様より神社の縁起や文化財、日本文化遺産のお話などをうかがいました。

公園で休憩の後、稲田姫の降臨地と伝わる奥の院に立ち寄りしました。



公園で一休み

降臨された稲田姫が、「姫の父母の宮と夫婦の宮を建て、この好井の水で稲を作り祀るよう」お告げを下されたと言われています。今でもここには、好井の泉と3枚の田が守られています。

この後、石切山脈前、旧トロッコ道を通り稲田駅前に到着、解散しました。

学習会

備えて安心！



3月8日（金）地域交流センターいなだ（旧稲田公民館）において、笠間市管理課近藤様、斉藤様を講師としてお迎えし、「備えて安心 防災・減災に向けて」の学習会を、二十数名の参加のもと開催しました。

十三年前の東日本大震災、今年一月一日の能登半島地震の映像、写真などで改めて悲惨な実情を認識しました。市の防災の最前線に立つ講師の先生のお話は、たくさんの方の経験に裏打ちされた生々しいものばかりで、防災・減災がより身近に感じられました。

県外研修会

見聞と交流を深める！



おもちゃと人形自動車博物館

11月15日(水)、上州の紅葉の山々を眺めながら、これまた4年ぶりの県外研修会を実施しました。

今回の見学先は、「伊香保おも



ちゃと人形自動車博物館」と「ガトーフエスタハラダ」です。

稲田駅前を7時30分に出発し、伊香保おもちゃと人形自動車博物館、上州物産館で昼食、ガトーフエスタハラダ、壬生PA、稲田駅前帰着16…40の行程でした。



上州物産館にて

伊香保おもちゃと人形自動車博物館は、昔なつかしいブリキのおもちゃや世界各国の珍しい人形が勢ぞろいした人形博物館を初め、国産クラシックカーを中心に約100台を展示する自動車博物館、昭和初期の町並みを再現した駄菓子屋横丁等「昭和」をテーマにしたアミューズメントパーク

です。

たくさんの人形に出迎えられる、わくわくしながらの入館です。レトロ感たっぷりの駄菓子屋横丁では自分の子供の頃を思い出し、なつかしさでいっぱいになりました。さらに数多くのクラシックカーの展示には圧倒されっぱなしで、車好きにとっては至福のときだったことでしょう。



おみやげの買い物

昼食はきのこご飯や上州うどんなどをいただき、おいしさに参加者の会話ははずみました。

昼食後、日本のラスクブームの火付け役となったガトーフエスタハラダの本社工場で生産工程を見学。途中で、できたてはやほのラスクの試食もできました。とてもおいしかったです。

様々な災害から命を守るためには、自助・共助の大切さ、必要なのは災害に強い生活様式の転換であり、私たち自身が日頃から災害に備えていなければならないということでした。

地震だけではなく、稲田地区は水害や土砂災害のおそれもあります。あらゆる災害を想定、シミュレーションして、私たち自身がどう備えていけばよいのかを考えさせてくれるよいきっかけとなる、とても有意義な学習会となりました。

「備えあれば患(うれ)いなし」



友愛訪問 長寿のお祝いと密着確認！



1月21日(日)、80歳以上のひとり暮らし高齢者のお祝いと健康状況の確認のため、友愛訪問を実施しました。

今年度の稲田地区の対象人数は、



昨年度より2人減り53人でした。

社協稲田支部役員と民生委員が、お祝いの紅白まんじゅうを手渡し、長寿のお祝いと長年のご労苦をねぎらい、併せて健康状況の確認をしました。皆さん「地域の方に見守られたい」と話されていました。これからも心豊かに長生きされることを願ってやみません。

認知症を支える！

○か×でお答えください。

- Q1 令和7年、高齢者の5人に1人が認知症になると予想されている
- Q2 笠間市の人口は0歳と88歳では0歳の人の人が多い
- Q3 認知症は脳の病気によって起こるもので老化による衰えとは違う
- Q4 認知症は忘れたことも頑張れば思い出すことができる
- Q5 認知症の人は何もわからないし楽しい・悲しいなどの感情もない
- Q6 ご飯を食べたのに食べていないというので、さつき食べた事実を食器を見せながら説明する
- Q7 認知症でもできる家事や仕事は今までどおりやつてもらおう
- Q8 認知症は治らないので受診して

も仕方ない

A1 厚労省によると20・6%

A2 0歳357人、88歳379人

A3 脳の病気が原因

A4 頑張っても困難

A5 喜怒哀楽の感情は残っている。プライドを傷つけない。

A6 説明しても理解できない。ちょっとしたお菓子や果物を出す。1

回分のご飯の量を減らし、残りを

おにぎりに出したりする。

A7 今できることを大切にする。

A8 慢性硬膜下血腫や脳腫瘍など治

せる病気の場合がある。進行を遅

らせる可能性がある。認知症を理解

し、今後の生活の準備ができる。

認知症の原因は老化ではなく、脳

の病気によるものです。中には認知

症と間違いやすい病気もあるので、

認知症だとあきらめず、早期に専門

医を受診することが大切です。

対応の心得は3つのない

①驚かせない ②急がせない

③プライドを傷つけない。

具体的な7つのポイント

①まずは見守る ②余裕をもつて対

応 ③声かけは1人で ④後ろから

声をかけない ⑤目線を合わせ優し

い口調で ⑥穏やかにはっきりした

話し方で ⑦耳を傾けゆっくり対応

認知症は、誰もがなり得る自分たちの問題です。認知症の人や家族が孤立しないよう温かい目で見守り、そつと支えていきたいものです。

編集後記

元日午後4時10分能登半島を襲った大地震はM7・6、最大震度7を記録しました。正月気分も吹き飛ぶ大惨事となりました。亡くなられた方にはお悔やみを、被災された方にはお見舞いを申し上げます。

友愛訪問で訪れた際、あるひとり暮らし高齢者の方が自宅で倒れていました。すぐに救急搬送を要請し、心臓マッサージを施しましたが、すでに亡くなられていました。これからますます増えてくるひとり暮らし高齢者、とても他人事とは思えません。「遠くの親戚より近くの他人」の言葉のとおり、地域のつながりをもつことがますます重要となってきます。能登半島地震でも近所や地域の人たちに助けられた方がたくさんいらっしゃったことでしょう。地域のつきあい方をもう一度見直していきたいものです。

広報委員

梅原 守

椎名 芳男

潮田 浩